

第13分科会（中泊町）
グリーンツーリズムでまちづくり

● NPO 法人赤城地域活性化の会 狩野 孝久

青森大会に参加するにあたって、地域おこしとして行われているグリーン・ツーリズムについて知りたく、また奥津軽の気候・風土・人々と触れ合いたく、中泊町第13分科会に加わることになりました。

中泊町では地域おこしとして、小説「津軽」の像記念館を小泊地区に、津軽の風俗を取り入れた伝統芸能（金多豆蔵人形一座・劇場）の常設劇場を津軽中里駅内に造り、観光客を誘致しています。



この町で地域活性化の活動をしているのが、農家の

主婦が主体となった、中泊町グリーン・ツーリズムの会「かけはし」です。

グリーン・ツーリズムの活動実践として「畑の学校・食卓の学校」を開設し、農・食の大切さを伝え、地域おこしをしています。

また、メンバーは地域活性化の一環として、津軽鉄道応援直売会として車内販売、漬け物まつりなどの地域活動に積極的に参加しています。

分科会では「地域活動を長く続ける秘訣」をテーマとして意見を交わしました。その中で①情報の把握、②後継者を育てる、③役所との協働、④身の丈に合った活動、⑤会員相互の理解、⑥自主財源の確保、などが必要ではないかという意見がありました。奥津軽の人情豊かな人たちに会った研修会でした。



● NPO 法人赤城地域活性化の会 狩野 雅之

今も息づく奥津軽の暮らし—ぬくもりあふれる人のまち「なかどまり」—をテーマとし、11月12日、13日の両日、中泊町グリーン・ツーリズムの会「かけはし」を中心とした分科会に参加しました。

中泊町は、広大な水田、津軽平野の中にあり、半島先端に位置するパノラマ風景と津軽海峡産「本マグロ」が穫れるところです。しかし、冬は日本海側のため、降雪が多く強烈な季節風が吹き、地吹雪となり目の前が真っ白になり、何も見えず、目も開けていられない様な厳しい気候風土にあるそうです。そのような中、働くことに喜びを持ち、文化とスポーツを愛し、子供とお年寄りをいたわり自然を守り、ふれあいを大切に心温かいまちづくりを目指すことを町民顕彰としているとのことでした。

分科会では「地域活動を長く続ける秘訣」をテーマに、全国から参加した仲間から、自分たちの取り組み状況について報告し、想い、悩んでいる話や、苦労話などが話されました。

それぞれの地域性、人間性、環境等の違いから、



何が一番良いかということにはなりませんでしたが、それぞれの人が悩みながら地域づくりをしていることが感じられました。

夜の夕食交流会では、本マグロの解体ショーがあり、マグロを腹一杯いただき、エネルギーを蓄え、夜中まで夜なべ談義をしました。

2日間にわたり、心のこもったおもてなしを受け、親しく交流ができ、最高の大会でした。

中泊のみなさん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

第14分科会（七戸町）
ふれ合いと賑わいのある美しい町づくり

● 事務局 田中 路子

青森大会に参加して改めて“地域をつくる”ということについて考える機会となった。

七戸町は競馬産業の衰退に伴い、名馬の産地というのは過去の遺産となっている。その中で、広大な土地を子供達のグリーン・ツーリズムに活用、馬車を走らせたり、ホースセラピーを考えるなどの教育としての地域づくり、文化財の銀杏の木の周りを、市民の集まれる場所にする場所活用の取り組み、リンゴジュースコンテストで最優秀賞をとったピンク色のリンゴジュースでオーナーを募ったり、道の駅で新品種アピオスや、黒ニンニクの品揃えを試みる食の発信。主婦たちが特産品で食文化を受け継ぐ伝統継承。七戸町では、新幹線は止まるものの、宿泊施設がない。そこで農家民宿の免許を各農家にとってもらうなどのあるもの活用。

おそらくどれも、地域づくりでは良く聞くキーワードである。何か特別な新しい物をつくるの



ではなく、今住む地域に誇りを持ち、人々が元気になることこそが目的であると改めて実感した。

今回、現地の活動家と時間を共に過ごし、情熱を肌で感じる事ができた。冬場の厳しい寒さの中でも、折れずに明るく笑っている姿は大変好感を抱いた。そういった意味では、青森県はすでに活性できている様にも思う。彼らを通して群馬県を見つめ直す機会にもなった。新幹線開通をきっかけとして官民一体となって、総出で地域について考え、自ら実行しそれを楽しんでいる姿勢は見習うところが多かった。

平成22年度あしたのまち・くらしづくり活動賞

「宮田またるの里を守る会」が振興奨励賞を受賞。

平成23年2月19日（土）表彰式が行われました。



もう遅い・いや・まだこれからさ!!
ホテルより学ぶ環境・そして地域の絆

平成22年度「群馬ふるさとづくり賞」の受賞、そして今回22年度あしたのまち・くらしづくり活動賞は、全国215団体より応募が寄せられ、中央審査委員会における審査の結果、「宮田またるの里を守る会」は振興奨励賞を受賞しました。

同会は平成8年に発足、10年に自主グループ団体となる。県、市、町各行政機関、自治会と連携し、行政任せでない自主独立の組織です。設立当初より運営は会費のみ、でもこの苦労が後に大いに役

平成22年度「群馬ふるさとづくり賞」の受賞、そして今回22年度あしたのまち・くらしづくり活動賞は、全国215団体より応募が寄せられ、中央審査委員会における審査の結果、「宮田またるの里を守る会」は振興奨励賞を受賞しました。

同会は平成8年に発足、10年に自主グループ団体となる。県、市、町各行政機関、自治会と連携し、行政任せでない自主独立の組織です。設立当初より運営は会費のみ、でもこの苦労が後に大いに役

今回の奨励賞は大きな励みになります。本当にありがとうございます。受賞者皆様との交流の集いもあり、楽しい90分でした。まさに90分（受賞者）の物語を感じることが出来た。内閣総理大臣賞を受賞した鹿嶋山地区コミュニティ協議会皆様との交流は素晴らしいものがあり、活動を通じて感動しました。

事務局 星野信好

立ち会員の経験や知識を蓄積することができ、現在の基礎になっています。

平成10年以後は将来の合併（新渋川市平成18年2月誕生）も考え、会員の門戸を地域の垣根を越え募集、その結果大勢の加入者があり、宮田ホテルの自然と生き物と人が共存する活動、そして、この地域の財産である自然や歴史、文化を伝承し赤城町の自然やホテルの棲る環境づくりを通して